

宇都市内での発掘調査

やまはく×埋文センター



「ほっとやまはく」 タイム④

宇部市内には遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が現在、108カ所あります。その中には私が発掘調査に携わった遺跡もあり、その二つを紹介します。一つは厚東棚井にある中世前半に長門守護として活躍した厚東氏の菩提（ぼだい）寺、安国東隆寺に存在する開山の祖（伝）南嶺和尚の墓の調査です。

その墓は寺の裏山にある墓所の中心にあり、石積みの基壇を伴い、中に自然石の板石が墓標として建てられた立派なものでした。しかし、長年の経過で墓石が傾いたために、開山650年目に当たる2年前の1987年、その改修・整備に先立つて調査を実施しまし

た。調査を始めると、早々に基壇上面近くで火葬骨が入った陶器の甕（かめ）が出土し、（二）が墓であることを裏付けました。さらに引き続き、基壇の下まで注意しながら掘り下げてみたところ、今度は地山面上で人為的に掘られた大きな方形の穴の痕跡が見つかりました。そして穴の中の土を除いていくと、一個の大さしが主に4~5センチ程度の河原石が繰々と現れています。それも全面にぎっしりと詰まつた状態でした。早速、いくつかの泥が付着していた小石の表面を洗つてみると、墨字で「仏」「法」「世」「衆」「尊」など、一つの石に一字の漢字が書かれたものを確認、本遺構が「一字一石経塚」と呼ばれる経塚の一種であることが分かりました。

もなんと約6万8千個にものぼり、全国でもまれな数量ということで驚きました。当時、新聞にも取り上げられて大きな話題になりました。なお、本経文は法華三部経の妙法蓮華経を中心に書かれたものと判明し、また本経塚が当時の僧や多くの民衆たちの厚い信仰心の下、被葬者への供養・現世利益の願いを込めて造られたことを物語っています。一方でこの経塚が造られた時期が江戸時代初め頃と推定され、出土人骨の鑑定結果からも南嶺和尚の墓とは言い難く、新たな疑問も残りました。ちなみに今日、本遺跡は山口県の経塚を代表する貴重な事例となっています。



(伝) 南嶺和尚の墓



一字一石絳石

もう一つは、83年に小串にある山口大医学部および付属病院の敷地内で遺跡を発見した調査です。その場所は真締川沿いの低地の市街地にあり、今でも市民の中でここに遺跡があると知る人は数少ないと思われます。山口大の関連施設は県内各地に分散しています。

すが、大學では各構内で
土地掘削を伴う土木工事
などに際しては文化財保
護法に基づき、事前の埋
蔵文化財調査を行つてい
ます。

小串キャンパス構内は
これまで遺跡の有無が不
明でしたが、体育館新築
工事に際して初めて試掘
を実施しました。その結
果、中世の土師（はじ）
器や瓦質土器の他、1万
年以前の旧石器時代の
石器も出土し、遺跡の存
在が明らかになりました。
その後も本構内では
諸工事に伴い隨時、調査
が行われており、これま
でに縄文土器や弥生土
器などの各時代の遺物が

山口大医学部（上）と同付属病院



今のところ、中世以前の住居跡や柱穴などの生活の痕跡は検出されておらず、古い時代の遺物は周辺の丘陵部付近からの流れ込みとみられています。ただし、旧海岸線を知る手掛かりになる漁具の石錘（せきすい）やハマグリなどの二枚貝を含

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで



森田孝一（眞理藏文化
財センター前調査第一課
長）